



第25回 山口大学おもしろプロジェクト 4月



第25回おもしろプロジェクト'21の募集

2021年度プロジェクト募集

募集要項・申請書は山口大学ホームページ「おもしろプロジェクト」からダウンロードできます

フ。おもしろ

最大支援額 **50万円**

キミのやる気を応援します

思う存分、夢を「カタチ」にする
山口大学おもしろプロジェクト
<http://sect.oue.yamaguchi-u.ac.jp/omoprohp/index.html>

申請締切 4月28日(水) 13:00

国立大学法人山口大学 教育・学生支援機構
学生支援部学生支援課

2020年度は新型コロナの感染拡大を考慮して中止となりましたが **2021年度は「おもしろプロジェクト」を実施（募集）** することとなりました。2021年度の「テーマ型」のテーマは、「ポストコロナ／ウィズコロナ」となっています。新型コロナの感染拡大を考慮して、申請は電子媒体のみとなっており 申請書内の「リスク対応」としてプロジェクト実施に伴う感染拡大防止策を記入してください。またこれまで署名が必要であった支援教員へのお願いは提出する必要はありませんが、お願いする教員には必ず一読してもらってください。詳しくはホームページより募集要項をダウンロードしてください。

申請の締切りは **2021年4月28日（水）13:00（厳守）** となっています。

学生の皆様の個性的でアイデアあふれる「おもしろい」プロジェクトを お待ちしております。

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**

書式の変更は厳禁！締め切り厳守！

辻 多聞

おもしろプロジェクトの申請が終わってから言うのもなんなのですが、今年度も含めてこれまで申請書を受け付けてきて、このことはお伝えしておかなければならないと思い、記載しておきます。

<書式の変更は厳禁！>

「書式をダウンロードしてPCで記入して送付してください」という形式は非常によくあります。今年度のおもしろプロジェクトもそうですし、今後就職活動にてエントリーシートを出すときもこのようなシチュエーションに必ず出会うことになります。ちなみに学術論文を出すときも書式の細かな指定がされています。このような場合、絶対にその書式を守らなければなりません。個人情報欄などではフォント情報が入ったりしています。フォントを変更したりサイズを変えては絶対にいけません。但しおもしろプロジェクトの申請書ならば計画欄、エントリーシートならば自己PRの部分は協調したいところをゴシックにしたり文字の大きさを大きくしてもかまいません。最も気を付けるべきところは書式が枠線などで囲まれているのならば、その枠線の大きさを勝手に変更したりしてはいけないということです。募集要項などにページ数の増加を認めるような記載がなければ、勝手にページ数を増やすことも絶対にしてはいけません。これらは社会では当たり前で、これをした場合は「書類不備」という扱いになり、読んでさえもらえないと覚悟しておいた方がよいです。「PCで作成だから楽だな」と思うのは大間違い、私の感覚では手書きの方がはるかに楽です。枠線に入るように文字量を調整することはもちろん、フォントサイズの変更や行間の変更（個人情報欄は除く）、個人情報欄ならば文字の縮小（サイズ変更ではない縮小）をします。枠線からはみ出ないように、記入することで枠線の位置が変更されていないか確認しながら作成することを覚えておいてください。作成ができたからといってまだ油断はできず、必ず印刷プレビューにて思ったようになっているかを確認することも必要です。少し余談になりますが、枠線が与えられているときは、その枠内の80%以上は何か書かれていることが望ましいです。だからと言って文字を大きくして80%以上にするのはなく、ダウンロード時に設定されていたサイズ以下でかつ小さくても8ポイント以上です。こうした意味でも大学時代にしっかりと「情報リテラシー」を学び、PCを扱えるようになっておいてください。

<締め切り厳守！>

書類の提出には基本的に締め切りが設定されています。この締め切りは絶対に守らなければなりません。コンピューターの発達により現在は正確な日本標準時をすぐに知ることができます。大学や企業のコンピューター（携帯電話）の大抵はタイムサーバーと連動して常に正確な時間が表示されています。電波時計も普及していますので、その時計も正確な時間です。メールにいたっては必ず「タイムスタンプ（タイムサーバーと連動した）」が記載されますので提出時刻が明らかになります。ひと昔前なら腕時計をみて、「俺の腕時計はまだ5時になってないから、受け取っておきましょう」みたいな緩いこともあったのですが、現在はそうではありません。私の知り合いで提出時間17時の卒業論文を17時1分に提出に行ったために受理してもらえず、留年となった人がいます。皆さんが思っているよりも社会ははるかに厳しいという気持ちを持っておいてください。

第25回おもしろプロジェクト'21の募集終了

2021年4月28日をもって「第25回おもしろプロジェクト21」の募集が終了しました。昨年度おもしろプロジェクトを実施していないことからどうなることかと心配していたのですが、良い意味で予想を裏切り、通常が12件、lightが6件と非常に多数の申請がありました。テーマ型でポストコロナ／ウィズコロナに関してはなかったのは少し残念ですが、なかなかそう思いつかないテーマでもありますからね。とにかくたくさんさんの学生が大学時代に何かやってみたいと思う気持ちをもっておられたことが嬉しくてなりません。これから選考にはいり合否が決定するわけですが、まずはこの申請書を書いたことが予想以上に大きな「学び」となっているので、自分の自信の一つにしてください。最後に上段にて書式に関して記載しましたが、今年度に関してはガイダンスをしなかったことから、変更されていた書式は勝手ながら修正させてもらったことを申し添えます。

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**

原点回帰～おもプロのおもしろって何？～

辻 多聞

そもそも、「おもしろプロジェクト」の「おもしろ（い）」とは何を指しているのでしょうか？

以前の副学長はこのように語っています。「受動的におもしろいものは飽きてしまう、能動的におもしろいものは持続する」と。確かにその通りで、友達とカラオケに行ったらおもしろいと思います（歌うのが嫌いな人もいるでしょうが、とりあえず歌うの好きということで読み進めてください）。しかしそのおもしろさは代金を支払って受け取っているわけです。一方で、歌のレッスンに通ったとします。こちらもレッスン料という代金を支払っていることになります。もちろん歌うのが好きな人ならばある程度おもしろいと感じるでしょう。しかし同時に歌うというのは難しいなとも感じるはずで、「なんで隣の人はあんなに上手く歌えるのだろうか」、「抑揚をつけるにはどのように歌えばいいのだろうか」、「この部分はもっと感情的に歌わなければ聞いている人に想いが伝わらないだろう」など色々考えるはずで。こうした深く考えること、改善しようと努力することの中にもおもしろさはあるはずで。この深く考えることや改善しようと努力することは、能動的なものであって、歌のレッスンはきっかけにすぎません。歌のレッスン料は能動的なおもしろさを得るきっかけ料金ということで、カラオケ代金とは全く性質が異なります。本題にもどり、以前の副学長は「おもしろプロジェクト」の「おもしろ（い）」とは、こうした能動的に深く考え、課題を解決しようと努力する中にある「おもしろ（い）」である、と言っているということです。

次に3つある「おもしろプロジェクトの哲学」を思い出してもらいたいと思います。「学生の自主的活動に対する信頼」が1つ目です。これは「学生が主体的になってやってごらんよ、私達教職員は口をはさまないから」ということです。2つ目が「失敗してもいい」です。この2つを合わせると少々意地悪な表現になりますが、こういうことです。（教職員から見たら）こうやったらもっと楽に上手くプロジェクトの成果が出せるのになあ、いやいや学生達が自分達でいっぱい失敗しながら考え、実行していけばいいじゃないか、例え成果がでなくてもこの失敗して考えて実行していくことにその学生にとっての「学び」があるのだから、という感じです。だからこそ何度も失敗して実行できるように十分な金額を支援して「思う存分やってみる（おもしろプロジェクトの哲学の3つ目）」があるわけです。これは前段の以前の副学長の言葉と相通じるものがあります。

ここで、失敗というものについて少し整理しておきます。畑村洋太郎の「失敗学のすすめ」の中に、失敗には3つのパターンがある、一つ目は繰り返しの失敗、2つ目は想定内の失敗、3つ目は想定外の失敗であるとされています。朝寝坊してまた遅刻してしまった、のようなものが繰り返しの失敗です。この失敗に関しては原因にしても対策にしても明らかなものです。今日はお客さんが10人白菜を買いにくるだろうから、10個白菜を仕入れておこう、でも売れ残るかもしれない、というのが2つ目の想定内の失敗例です。これは例えば上記例ならば売れ残ることが想定できているので、その分仕入れ価格に対して利益を多くしておいてできるだけ損益がでないように工夫ができます。3つ目の失敗は、ちょっと厳しい現実ですが飛行機の墜落、のようなものです。飛行機が墜落すると大惨事になることは分かりきっていることです。だから飛行機は入念に計算し、設計し、墜落しないように精密に製造されています。それでも墜落事故は起きてしまうのです。この3つ目の失敗にこそ、深く考える要素があり、「学び」の種があるのです。ちなみに飛行機にはブラックボックスが搭載され、同じ失敗が繰り返されないように工夫されています。

さて本題の「おもしろプロジェクト」の「おもしろ（い）」とは何を指しているのか、ですが、要は「失敗して、その原因を考えて、それが二度と生じないように、もしくは改善できるようにする」中にあるものを指していると私は思っています。もちろんここで指す失敗とは3つ目の失敗である想定外の失敗のことです。では3つ目の失敗はどこに存在するのでしょうか。誰も思いつかなかった、もしくはあまり人が関与したことがない「新しいこと」にはこれがたくさん含まれています。何もかもが新しいわけで、どれを実行しても必ずといってよいほど失敗するでしょうから。現に飛行機が乗客を乗せて飛ぶ（成功）までに、ライト兄弟の成功からどれくらい時間（失敗）を費やしたかを見れば一目瞭然です。しかし3つ目の失敗はここだけにあるわけではありません。先の例を使うならばブラックボックスの中にもあります。上手くいくべきはずのものが失敗を招いた情報がそこに入っているわけですから。何が言いたいかというと、継続しているプロジェクトのなかにも3つ目の失敗の要素があるということです。

おもしろプロジェクトの「おもしろ（い）」とは、「新しくておもしろい」という側面と「やってみたらおもしろい（改善してみたらおもしろい）」という側面の2つがあると私は思っています。後者の「おもしろい」の意義についてもう一度学内教職員にて議論していく必要があると思っています。

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**

2021年度おもしろプロジェクト採択団体決定！

Yamaguchi University Creative Community 目的はものづくりを自主的に行う学生を増やし、交流し、コミュニティを作ること。工学部の先生ではない方々をお呼びしてワークショップを行い、最終的にはものづくりハッカソンを開きます。大学では座学や実験で知識を吸収していますが、そこで終わってしまっていると感じます。自分の手でものを作って試行錯誤することによって得られる感動や楽しさがそこにはあるはず。この楽しさを多くの方と共有したいと思っています。
みんなでハッピーホースライフ！～馬活動室ボランティアグループ～ 心に癒しを求めている人々が馬と触れ合うことでやすらぎを与えるホースセラピーに注目し、構成員のみならず地域の人々に対しても心身の健康をもたらす社会貢献活動を主たる目的として結成された。馬の手入れ、飼養管理、厩舎管理、障がい者乗馬などを通して障がい者の精神機能と運動機能を向上させ、社会復帰を早めるリハビリテーションに寄与するとされている。そこで、山口大学教育学部附属特別支援学校の子供達を対象に「馬活動室」を立ち上げた。子供や馬が楽しめるようDIYに工夫を凝らすこと、馬の堆肥を活用し馬-土-野菜-人の循環を体感すること等をこの会に取り込み、多面的に馬と社会がにつながる仕組みを考案・実現していく。
山口大学に生息する野生哺乳動物の多様性調査 ～Yammalogy～ 本プロジェクトでは、山口大学吉田キャンパス内に生息している野生哺乳動物種を把握し、山野生動物図鑑として一般へ広く公開することを目的とする。山口大学吉田キャンパスは、教育研究施設だけでなくビオトープや共育の丘といった自然豊かで広大な敷地を持つ。多様な生物が生息すると予想される吉田キャンパスについて、モニタリングを通じた哺乳動物の生息動物種リストを作成し、図鑑形式で一般に公開する。完成した図鑑は、社会に対する山口大学の広報に活用できる他、身近な自然・動物と人との関係を再考する端緒になりうる。
AIによる交通事故減少プロジェクト～機械学習を学ぶ会～ 山口大学近辺は交通量が非常に多く危険を感じることが多い。そこで交通の円滑化、交通事故の減少を図るためのシステム開発の基盤づくりとして、本プロジェクトでは映像に映り込む車や歩行者を認識、数を計上するプログラムを開発する。(国土交通省が人力で行っている交通量測定の自動化)単純な交通量だけを示すのではなく適当な係数を割り当てて危険度を数値化、見える化も目指す。
マイボトルを山口大学生のステータスに～AQUA～ SDGsのゴール6(安全な水とトイレを世界に)13(気候変動に具体的な対策を)14(海の豊かさを守ろう)15(陸の豊かさを守ろう)に興味関心を抱くチームです。中でもプラスチック問題に注目し、ペットボトル削減のために自動販売機でペットボトル飲料を購入するのではなく、多くの学生がマイボトルを使う必要があるという結論に至りました。そのため、ドリンクサーバーを設置します。どれほどの需要があるのか、マイボトルの普及率はどれくらいなのか、その他にも学生の意識向上に対して様々な方法でアプローチをしていきます。目的としては学生の環境問題やプラスチック問題への意識改革、プロトタイプの実施、調査となっています。
リアル桃鉄 YAMAGUCHI～山口を元気にし隊～ テレビゲーム「桃太郎電鉄」を山口県内の鉄道を実際に利用したゲームイベントを開催するものである。「桃太郎電鉄」は鉄道網を活用したすごろくゲームであり、本プロジェクトでは、参加学生がチームに分かれてサイコロをふりながら、実際に移動して得点を競い、下車した駅や付近を散策し、SNSを活用して鉄道と徒歩のみで見つけた「魅力ある景色」の写真をSNSに投稿するという独自のルールを加える。収集した写真や情報をもとに、鉄道を活用した学生向けの観光プランを作成する。※「桃太郎電鉄」「桃鉄」は株式会社コナミデジタルエンタテインメントの登録商標です。
のんた大島よいところプロジェクト～チームのんた～ 地元の小中学生に、ふるさとである周防大島が楽しい場所であると感じてもらえることを目指し、地域交流を主とした定期的なイベントを開催する。また、事前に周防大島の実態調査を行い、地域課題に即した企画であるか考察を進める。このプロジェクトを通して実現したい目的は、①地域の子供たちの第3の居場所をつくる、②子どもたちの郷土愛を育む、③「周防大島は田舎でつまらない」と出ていった若い世代の出身者に周防大島に対するポジティブな印象を持ってもらう、といった3点がある。
【Light】エコとかわいいの二兎を追う！in FAVO 山口大学生協同組合(以下「生協」とする)運営の福利厚生施設FAVO(以下「FAVO」とする)で使用されている使い捨て紙袋を再利用可能な袋(以下「代替袋」とする)に代替し、デポジット制度を導入することを目的とした調査・研究を行う。今年度は生協への聞き取りや学生へのアンケートを通じた現状調査、衛生的に再利用可能な袋の材質の研究、デポジット制度導入時の代替袋の回収や、電子マネーCHORUKA(以下「ちよるか」とする)を活用した返金方法についての調査・計画を行う。その際、デザイン性のある紙袋が持つ販売促進機能を損なわない外見とするための研究も行う。また、調査結果を踏まえた生協への提案を行い、現在生協運営の福利厚生施設で使用されている「リリパック」にも応用可能なデポジット制度の来年度導入を目指す。
【Light】Build a Bridge～ぶりえん～ 本プロジェクトでは、学生が主体となって鋼橋梁模型を製作し、工学知識の応用力や問題解決能力、デザイン力を養うことを目的とする。また、載荷試験(模型の中央部付近に200kgfの錘を載荷し、たわみを計測する)も実施し、製作した模型によるたわみの実測値と構造解析ソフトによるたわみの解析値を比較する。本プロジェクトでは、解析値の誤差が小さく、軽量かつ施工性の良い模型の製作を目指す。
【Light】これであなたも未来の博士～YY Chemclas～ 昨今の国内の理系離れを背景にリケダン・リケジョを増やすため、このプロジェクトでは小中高校への訪問型化学実験セミナーを開催します。化学に興味がある人を集めて行うのではなく訪問型という形で授業の一環として組み込んで頂き、身近な現象やものを教材として用いて化学の「おもしろさ」や「不思議」に触れてもらうことで、化学に苦手意識を持っている学生にも関心を持ってもらいます。今回はコロナ禍ということも踏まえて県内の小、中、高校生を対象とし、訪問先の意向も踏まえてオンライン/対面両方での実施を考えています。

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



第25回 山口大学おもしろプロジェクト' 21 8月



2021年6・7月の活動報告より

山口大学に生息する野生哺乳動物の多様性調査～Yammalogy～

6月からいよいよYammalogyとしての活動が始まりました。はじめは必要な物品やカメラの性能についての相談からスタートし、期待に胸を膨らませていました。カメラの到着を待っていると、団体紹介の宣伝ポスターを見て興味を持ってくれた学生さんから連絡をいただき、なんとプロジェクトに参加してくれることになりました！カメラの到着前ということで、ほとんど全ての活動をこれから共にすることができそうで非常に嬉しく思っています。まだまだ活動メンバーを増やしていきたいと考えているので興味のある方はぜひご連絡ください！もちろん学部などは問いません！そして、7月中旬には4台のカメラが到着し、新メンバーと一緒にカメラの調整および設置を行いました。しかし野生動物は撮影できず、早急にカメラの設定や設置環境の改善が必要であると感じました。より野生動物が写りやすいような画角や場所についてメンバー内で話し合い、下旬に再びカメラを設置してなんとかネコの撮影に成功しました！来月以降は様々な野生動物の撮影に挑戦します！



初めてのカメラ設置！

リアル桃鉄 YAMAGUCHI ～山口を元気にし隊～

最も印象的な出来事は、スゴロクゲームを開催したことです。このスゴロクゲームでは、山口県のJR路線図・時刻表を用いて行いました。スゴロクゲームを開催するまで、山口県の鉄道の情報についてあまり理解していませんでした。スゴロク中では、ローカル線を乗車した際一度下車すれば2時間程その駅に滞在する可能性があり効率的に進めるために大きな問題となりました。そのほかに、テレビゲームでは初めに決めた順番通りにサイコロを振ることが可能ですが、実際に鉄道を使用したゲームでは、順番通りにサイコロが振ることができないことなどの問題がありました。この出来事からゲームを円滑に進めるには、既存のゲームには存在しない独自のルールが必要であることを痛感し、議論を重ね”リアル桃鉄 YAMAGUCHI”のゲームルールを作成いたしました。県内139個の駅の多くにさまざまなイベントが発生するようにマップを作成しましたのでプロジェクトの開催日に多くの参加者にはきっと喜んでいただけたと思います。



すごろくゲームボード

これであなたも未来の博士！～YY Chemicals～

準備として、石鹼・芳香剤の模擬実験、メンバー全員でのリハーサル、参加して下さる方々へ配布するチラシ・ポスターを作成するなどの活動を行いました。模擬実験に関しては、学校の実験室にてメンバー全員で石鹼・芳香剤を1から作製しました。特に石鹼作りに関してはどのような試薬を使用するか、試薬の配合量や割合はどうするかといったことなどを試行錯誤し、その結果、添付写真のような石鹼が完成しました。この石鹼は、食品添加物に含まれている成分でできており、安心安全だということがポイントです！実際に使用できた時はとても感動しました。来月は、この石鹼や芳香剤を実際に子供達に作ってもらい、子供達が楽しんでくれる姿を見るのが楽しみです。また、実際の化学セミナー教室を想定して、メンバーで入念なリハーサルを行いました。実験にかかる時間や流れを共有し、子供達に化学現象をいかにわかりやすく説明して興味を持ってもらうかということを意識して議論を行いました。本番に向けて、メンバー全員で一致団結し準備に励んだ1か月でした！



食品添加物を使用した
安心安全な石鹼

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**



第25回 山口大学おもしろプロジェクト'21 9月



2021年8月の活動報告より

みんなでハッピーホースライフ！～馬活動室ボランティアグループ～

8月20日に予定していた「ヤマミィ学級 ～馬に会いに行ってお絵かきしよう～」は土砂災害警戒情報が発表されたため中止となりました。参加予定だった13名の小学生、私達ともに残念な結果となりましたが、時期を改めて次こそは開催できると嬉しいです。また、8月はホースアシステッドセラピー教室についても、特別支援学校の夏休み期間のため年間予定に組み込んでおらず、大きなイベントはありませんでした。

8月は山口県内も大雨が続いたと思えば蒸し暑さが戻ってきてと、目まぐるしい天候の月となりました。この大雨の影響でニンジンの区画が浸水するなど畑の作物に被害が出たり、セラピー活動が阻まれたりしました。このような状況のなか、プロジェクトメンバーは互いに助け合い馬たちの生活を守ってきました。「馬と関わることで夏休みでも朝早く起床し健康的な生活を送ることができている。夏バテしないのも馬のおかげ。」と語ります。メンバーの皆さん、協力してくださっている山口大学職員さんには心より感謝いたします。



放牧でリフレッシュ！

のんた大島よいところプロジェクト～チームのんた～

8月16日に、周防大島町にてフィールドワークを行いました！参加者6名で、11時からまずは農村環境改善センターにお邪魔しました。ホールや和室などを確認し、食推の西岡さんに注意点を伺いました。その後、14時から大内バラ園へ向かう2人と社会福祉協議会の方とお話する4人の二手に分かれました。大内バラ園では、ハーバリウム作りをする際に購入できるバラの種類や、季節によってどのようにバラの大きさや価格が変化するかを教えていただきました。帰り際には、大内さんよりバラの花束をいただきました！色とりどりで美しいバラでした（後にメンバーで分けて持ち帰り、各自花瓶に生けるなどして楽しみました）。また、社会福祉協議会の谷さんと環境センターにてお話をいただき、活動の仕方や方針などについて学びました。今回の活動は現在の状況下、かなり制限のかかったものとなりましたが、全員が元気で終わることができ、また現地でしか分からないことを多く見聞きできたのでよかったです。お世話になった皆さま、ありがとうございました！



フィールドワークの様子

Build a Bridge～ぶりえん～

8月2日に大会本番の鋼材が届いたので、溶接、切断作業を開始しました。鋼材の溶接や切断作業は学校の授業では体験することなく、量も多く、慣れていない分手間がかかりましたが、新鮮な体験ができたと思います。夏の暑い中、工房で全員で作業を行い、すべての鋼材の加工を終えた時は、皆で喜び達成感を多く感じることができました。

8月23日には、鋼材、ボルト、ナットなどの橋梁を組み立てるための用意ができたので、架設時間を短縮するために、何回も橋梁模型の組み立ての練習を行いました。組み立てる方法や、手順を全員で考え、作戦を立て、回数をこなすことで架設時間が短くなり、8月29日に提出する橋梁模型の組み立て動画を提出することができました。大変疲れましたが、全員で協力、考えることで一つの目的をこなすことの大切さを学ぶことができ、良い経験ができたと考えます。9月にこの架設動画に加え、美観、プレゼンテーションを含めた審査が行われるため、これまで以上に全員で協力をし、大会の優勝を目指したいと思います。



橋梁模型の完成

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**



第25回 山口大学おもしろプロジェクト'21 10月



2021年9月の活動報告より

マイボトルを山口大学のステータスに～AQUA～

今月は二人とも忙しく思うように活動ができませんでした。しかしそのような中、皆さまの助けのおかげで図書館にウォーターサーバーを設置することができました。これからがスタートではありますが、第一目標であったウォーターサーバー設置が実現し嬉しく思います。

現在オンライン授業ですが、オンライン授業が開けて学生が来る機会が増えるのでどのように宣伝し、より多くの人に使っていただくか考える必要があると思っています。ウォーターサーバーに流量計をつけてもらい使用料がわかるようにはなっているのですが、水量を量るアプリ制作を行なっております。

今月は山口ノーコード学生会さんにアプリ開発勉強会を行なっていただきました。自分たちが思っているより難しいプログラミングではなくノーコードで誰でも学ぶとできるようになる仕組みで大変勉強になりました。個人情報保護の観点からも問題がないかどうか、セキュリティについても学んでいきたいと思っています。



図書館に設置した
ウォーターサーバー

エコとかわいいの二兎を追う！ in FAVO

長期休暇ということで先月に引き続き対面での活動は少ない一か月となりましたが、今月は主に学生を対象としたアンケート調査に向けた準備を行いました。10月末の実施を目標として、質問項目や実施場所、回答方法などを検討しました。紙袋の代替、ひいては環境負荷を軽減するという最終目標に向けて必要となる情報を整理し、どのような工夫をすればより信頼度の高い結果が得られるかなどについて打ち合わせを重ねました。実際にFAVOに行ってアンケート実施という視点から見慣れた筈のFAVOを見てみると、レジの数や出入口のレイアウトなどこれまで意識したことのない点に新たな発見があり興味深く感じました。今後は、社会調査を専門とされる先生にもご協力いただいて調査の詳細について決定し、物品の準備や実施許可といった条件が整い次第実際の調査を行う予定です。また、生協団体の代表者の方からのご返信をいただいた後には、ご返答の内容をその後の活動方針や次の質問内容の決定に活かしていきたいと考えています。



アンケートに向けて
FAVOで打ち合わせ

山口大学に生息する野生哺乳動物の多様性調査～Yammalogy～

今月は台風の影響で活動できない日もありましたが、ついに野ウサギやイノシシらしき動物の撮影に成功しました！ありがたいことに、私たちの活動が広まりつつあるようで、有益な情報が集まってくるようになりました。今回の野ウサギ？の撮影成功も、厩舎付近に草食動物の糞らしきものが散乱しているという情報あったのものでした。ありがとうございます。また、活動中に小型野生哺乳動物の頭蓋骨と思われる白骨を発見しました。厳しかった夏の暑さも和らぎ、カメラの設置や回収の際にメンバーが蚊に刺されたり、日焼けしたり、汗だくになる日も減ってきました。秋は木の実など食糧も豊富になるので、野生哺乳動物にとっても過ごしやすい季節のはず…。農場の使用許可も下りたので、これからが本番！もっと多様な野生哺乳動物を撮影できるように、メンバー一同仲良く励んでいきます！！山大内で野生哺乳動物を見かけた場合や、糞や足跡や巣などの痕跡を見つけた場合には、ぜひ私たちまでご一報ください。(猫以外だと嬉しいです笑)



野生哺乳動物の宝庫！？
附属農場デビュー！

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**



第25回 山口大学おもしろプロジェクト' 21 11月



2021年10月の活動報告より

これであなたも未来の博士！～YYChemicals～

今月も先月に引きつづき、プロジェクト関係者の全員でこれからの活動についてのミーティングを行いました。会議内容は次の訪問先についてです。前回の活動では地域に赴き、不特定多数の地域の人々をターゲットにして活動を行いました。今回は学校に訪問し特定のターゲットに対して活動することを決定しました。未だコロナウイルスの不安もあり、県外などの遠くの学校では受け入れがたいのではないかという意見から山口県内の学校をメインに探すことに決定しました。その中でも、少人数で実施することができる、「分校」という名前がついているところを重点的に探してみることにしました。訪問先の案は、二つ挙げられました。まず、先生や学生と関わりがあり、生徒数が少ないという理由から「吉賀高等学校」となりました。また、前述同様に、生徒数が少ないという理由から「佐波分校」が挙げられ、現在日程などの詳細を交渉中です。翌月は学校をあと3校ほどピックアップし、私たちの活動をどのように学校へプレゼンテーションするか考え、実行する予定です。



夏休みに開催した
イベントの様子

リアル桃鉄 YAMAGUCHI ～山口を元気にし隊～

今月の活動において最も印象的な出来事は、吉田キャンパスでのチラシ配りです。ポスターを学内に貼っているにも関わらず、参加者が集まらない現状を打開するため、また山大生にリアル桃鉄の企画がどれだけ浸透しているか調査するために実施いたしました。200部を配りましたが、アンケートの設定上のミスによりアンケートが集めることができませんでした。しかし、配っている中で「この企画知ってる」といった直の声を聞くことができ、自分が思っているよりも皆さんは知ってくれているといった印象を受けました。一方課題として、知人などにリアル桃鉄について聞いてみると、名前は知っていてもゲーム内容をあまり理解してもらえていない現状があるので知ってもらうにはどのメディア媒体を使ってどうやって周知していくかという点と、チラシを作る際にゲーム内で発生するイベントについて詳細があまり決まっていなかった部分があったので、詳細を来月はじめまでに詰めていければと思います。



ビラ配り
in吉田キャンパス

みんなでハッピーホースライフ！～馬活動室ボランティアグループ～

10月8日(金)に特別支援学校の生徒を対象に、ホースアシステッドセラピー教室を開催しました。見学2名、参加6名の計8名の生徒に来ていただきました。

5月から参加してくれている生徒にも心境の変化、チャレンジ精神が芽生え、馬に積極的に近づくようになりました。馬のそばまで行って餌をあげたり、もう少しで触れる(後5mm)まで来ることができました。ほかの生徒も自分から馬のそばにくるようになりました。

今年度から始めたプロジェクトとなりますが、生徒にも変化がみられ嬉しく思います。私たちメンバーも今後、勉強会やボランティアを通じて子供たちとの関わり方を学んでいき向上していく所存です。また、特別支援学校の生徒を対象としたセラピー教室だけでなく、他の方々に対しても馬と触れ合うことで精神の安定とコミュニケーション能力の促進を図る活動を開催していく予定です。

来年度の活動に向けて、新メンバー勧誘活動や現メンバーの理解を深める活動をし始めました。来年、再来年と継続していくための準備も並行していきたいと考えています。



みんなで仲良く
朝放牧！

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**



第25回 山口大学おもしろプロジェクト'21 12月



2021年11月の活動報告より

山口大学に生息する野生哺乳動物の多様性調査～Yammalogy～

今月も附属農場でカメラを設置し動物の撮影を行いました。プロジェクトを始め、山口大学内(主に共育の丘周辺)にカメラをしかけ始めた8月・9月上旬は、カメラに映る動物はネコばかりで時々ウサギなどが映るといった状況でしたが、農場にカメラを仕掛け始めてからタヌキやキツネ、イノシシと思われる動物の撮影に成功し、農場でカメラを仕掛けると高い確率でネコ以外の動物を撮影することができるようになりました。活動の中で一番私が印象に残っていることは、木々や草むらの中よりも人が通る道にカメラを仕掛けた方が多くの動物の撮影ができたことでした。農場に普段からよく出入りされている方からお聞きした農場に生息する哺乳動物の中で、比較的大きな動物の多く(キツネ・タヌキ・イノシシ)は撮影に成功している一方、ネズミやイタチなどといった小動物の撮影がまだできていないので、そのような体の小さい動物が撮影できるよう12月はカメラの画角・設置位置を下げて撮影してみようと思っています。また、撮影した動物の図鑑を作成していく予定です。



附属農場で
カメラの設置と回収

エコとかわいいの二兎を追う！ in FAVO

先月以降、現在FAVO booksで販売されているエコバッグの利用者を増やすことで紙袋の消費削減を目指すという方向になり、まずはFAVOのエコバッグと同価格帯、約300円前後の市販のエコバッグと比較してみることにしました！FAVOのバッグと同じ黒色と、紙袋のナチュラルな雰囲気に近いベージュの二色に絞って探してみたところ、エコバッグといっても様々な需要に合致した多種多様なものがあることが分かりました！色やデザインといった外見的特徴もその一部ですが、目的によって大きさやマチの有無などが異なり、保温性のあるものや折り畳みに特化したもの、丈夫さに優れたものなどもありました！今回のプロジェクトのターゲットであるFAVOの利用者にはこういったニーズがあるのか、今後要調査です！今月はプロジェクトメンバーが忙しく、月の後半の活動が少なく……気付けばもう今年もあと一ヶ月、果たして今年度末の報告書＆提案書の提出までにどこまで調査を進められるか不安もありますが、残り数ヶ月、全力で取り組んでまいります！



細部まで工夫されている
FAVOのエコバック

Build a Bridge～ぶりえん～

総合得点で1位であった鳥取大学についての研究を行いました。鳥取大学は構造部門において1位を獲得しており、最もたわみの値が小さかった学校でした。構造はトラス形式で、総重量も最も少なく21.3kgfでした。これは構造の解析を回すことでたわみの期待値を算出し最も低くなるような構造を採用しているからと考えられました。その次に総合得点で2位であった名城大学と、3位であった岐阜大学1の研究を行いました。名城大学は美観の部門とプレゼンテーションの部門で1位を獲得しており、構造はアーチトラスを採用しており、赤と白のカラーを用いることで梅の上品さを表現していました。塗装においても、薄い塗装を重ねることで凹凸の少ない表面を作成していました。岐阜大学1は架設部門において1位を獲得しており、架設時間が3分6秒と圧倒的な速さでした。その速さは部材を企画ぎりぎりの大きさにすることで部材数を減少することにより可能としていました。今回の研究内容を来年の設計、製作の作戦に反映させていきたいと考えています。



総合得点1位の
鳥取大学の構造の研究

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**



第25回 山口大学おもしろプロジェクト'21 1月



2021年12月の活動報告より

リアル桃鉄 YAMAGUCHI ～山口を元気にし隊～

4月当初より計画を進めてきた、「リアル桃鉄 YAMAGUCHI」。夏開催の予定から、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による延期を経て、12月11日無事開催されました。山口大学の様々な学部、学年から総勢5チーム18人のご参加をいただき無事成功を収めました。山口県内の鉄道を利用し、サイコロの目の数で進んで偶然降りた駅での出会い、おしゃれなスポット、そしてその楽しみ方を大学生の目線から見出していただくことができました。本部で見守る私たちも新しい魅力の発見とそれを楽しむ参加者の皆様を見てとても嬉しく思いました。直前まで参加者の募集やルールの徹底など様々な解決すべき課題が存在し、それらを解決しイベントの開催がかなったことはとても大きな喜びです。そしてこれをきっかけとして山口県の魅力が存分に発信されることを望んでいます。1月13日まで、イベント中参加者から投稿された写真への投票を受付中です。その結果を含めて総合優勝のチームを決定します。



新山口駅で
参加者集合写真

Build a Bridge～ぶりえん～

今月は大会上位校の研究を行いました。対象は、山口大学よりも総合で上位であった岐阜大学、熊本高専、名古屋工業大学、福井大学、日本大学、九州大学の7校です。この中で岐阜大学や名古屋工業大学の構造は見た目が特徴的で、メンバー間でも高評価であり、この2校を参考に、来年は2種類以上の色とアーチや、トラス構造を含めた特殊な形式を採用することにしました。また山口大学は架設時間が上位7校のどの学校と比べても2倍近くかかっていることや、総重量も失格になった学校を除いて最も重い結果であったため、橋梁模型の溶接個所の増加、部材数の減少を積極的に行います。たわみについては、山口大学は失格になった学校を除いて2位であったため、他校と比べて特徴的であった部材の接合方法やボルトの種類などは来年も同様に採用していくこととしました。2021年の大会は無事に終了できたものの、順位は10位で悔しい結果となっています。この結果を受け入れ、メンバーで団結し、これから来年の大会に向けて準備を進めていきます。



岐阜大学の橋梁模型で
構造を研究

のんた大島よいところプロジェクト～チームのんた～

12月25日に周防大島町農村環境改善センターにて、『のんたクリスマスDAY』イベントを行いました。まず、「どんじゃんけんほいゲーム」をしました。2チームに分かれてホールに引いたラインの上を走り、出会ったらじゃんけんをして相手の陣地を目指します。次に、サイコロを転がして出たお題にしたがって自己紹介をするゲームをしました。その後、クリスマスカードづくりをしました。子どもたちは紙を切ってツリーを作り、リボンやカラーペン、マスキングテープなどを使ってオリジナルのカードを完成させました。最後に、カードを隠して探し当てるゲームをして終了しました。子どもたちは大学生の顔と名前を覚えてくれ、好きなものについてたくさん話してくれました。今回は、インスタを通じて協力を申し出てくださった、東京と大島の二拠点で生活されている尼崎さんとお会いし、一緒にイベントを楽しみました。カラーペンやカードを持ってきてくださったり、今後の活動の仕方についてアドバイスをいただいたりと、とてもたすかりました。ありがとうございました。



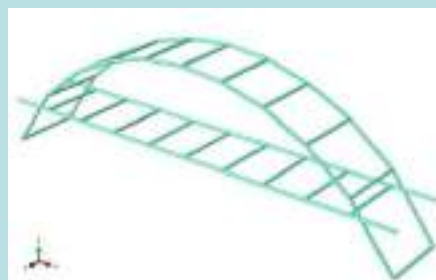
のんたクリスマスDAY
記念撮影の様子

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**



Build a Bridge～ぶりえん～

今月は来年度の大会に向けて、橋梁構造、図面の決定及び、図面の作成を行いました。私たちはこれまで下路橋で鉸桁橋とトラス橋、トラスランガー橋の作成を行ってきました。そこで、来年は作成したことのない形式を採用するために、中路橋でアーチ橋の作成を考えています。部材数を減らすこと、作りやすさ、重さの減量化を重視してメンバーで会議を行った結果、写真に示すようなアーチ橋のモデルを作成しました。次からはこの作成したモデルに解析を行い、耐荷重の計算をおこなって行きます。その結果を踏まえ、大会に優勝するためには、耐荷重を小さくしないようにしたうえで減量、組み立てのしやすい技術を導入していかなければなりません。どこの部材を減らしていくとうまくいくのか、またどこの部材を追加することでより効率の良い耐荷重を得ることができるのかをメンバーで決め、これまで研究してきた他校の技術や見た目のセンスを考慮して優勝のできる橋梁模型の決定を行いたいと思います。



次年度に向けて設計中
アーチ橋モデル

山口大学に生息する野生哺乳動物の多様性調査～Yammalogy～

1月も引き続いて野生動物の撮影を試みています。最近では、以前に撮影された動物が再度写り込んでくることが増えてきているので、「①今まで撮影できていない動物がいそうなところ」や「②同じ動物でもより良い写真が撮れるようなカメラアングル」などを試してみたりと試行錯誤を繰り返しています。それでもなかなか思うようにいい写真が撮れないことも多く、野生動物に近づくことは難しいなとひしひしと感じています。本格的な冬の寒さが到来し、さらに日も短くなり、動物が活動する時間も長くはないのかもしれませんが、撮影できる時間ももう長くはないので、なんとかもうひと踏ん張りして珍しい写真を撮りたいものです。また、図鑑ページの作成も並行して進めているのですが、まだまだ完成は遠そうです(笑)。各々隙間時間を使って頑張っていますが、いざページ作成に取り掛かると頭を悩ませることが多くあります。ここを乗り越えてみんなでもいいものに仕上げたいと思います！



図鑑のサンプルイメージ
「イエネコ」頁

リアル桃鉄 YAMAGUCHI ～山口を元気にし隊～

今月の活動において最も印象的な出来事は、写真投票の点数を加え総合優勝を決定し発表したことです。

先月開催した「リアル桃鉄YAMAGUCHI」で参加者から投稿された写真への投票をネット上で集計し、TOP10までの写真を発表し、優勝チームを決定しました。優勝チーム「んだ社長」チームに記念品を贈呈しました。

イベント後、投票方法や投票をどう集めるかについては、課題ではあったものの、イベントのInstagramにある程度フォロワーが集まっていたことや参加者らに投票フォームを広めてもらったことで結果として100名以上の方に投票をしていただくことができました。

今後このイベントを開催した意味や効果などについてふりかえりを行いながら、今一度、このイベントを開催した理由に立ち戻り、イベントを実施したことで何が得られたか、今後どう活かせるかをメンバーらとまとめていきたいと思っています。



優勝チームへ
記念品を贈呈

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**



第25回 山口大学おもしろプロジェクト'21 3月



2022年1月の活動報告より

みんなでハッピーホースライフ！～馬活動室ボランティアグループ～

ヤマミイ学級(大学内の学童保育)の小学生17名に対しアクティビティを提供しました。にんじんをあげたり、ブラッシングしたりと子供たちも楽しく活動できました。馬に触るのが初めてという子供たちがほとんどでしたが、みんなが馬に触ることができるになり達成感を得られたようです。これからもヤマミイ学級の活動は続けていきたいと思います。

サラブレッドのフォーが1月10日に突然死しました。ヤマミイ学級がフォーにとっての最後のお仕事になるとは誰も思っておらず、サークルメンバーや、子供たちにとって非常に悲しい別れとなりました。私たちは現在ひとりになったどんちゃんを寂しい思いにさせないためにも、たびたび厩舎に足を運んだり放牧したりしています。もともと2月あたりに新しい仲間(牡の道産子)が来る予定だったので、ひとりの期間は短いかもしれませんが、これからも活動を続けられるように尽力いたします。



ふたりはともだち
どんちゃん&フォー

これであなたも未来の博士！～YYChemicals～

先月訪問した3校の高校のアンケート結果や実際の声を元に、活動の振り返りを行いました。アンケートでは、この科学セミナーを実施する前後の「化学」への関心度と、科学セミナーの面白さについての調査を行いました。化学への関心度について、興味がある学生はセミナー実施前は半数弱であったのに対し、セミナー実施後は約8割にまで増加しました。実際に生徒のみなさんからは、「化学に苦手意識を持っていたが、興味を持つようになった」という声を頂き、大変嬉しく感じました。また、セミナーの面白さについて、「高校に入って一番楽しい実験だった」「冗談交じりに面白く理解できた」といった声を多数頂くことができ、達成感を感じました。私たちも、生徒のみなさんと関わる中で、新たな視点や経験を得られ、成長を感じることができました。年間を通して、研究室のメンバーとともに実験の企画から実施までを試行錯誤しながら行ったことで、最終的には生徒のみなさんに喜んでもらうことができ、大変貴重な経験をさせてもらいました。



高校生のみなさんと実験
を楽しんでいる様子

のんた大島よいところプロジェクト～チームのんた～

今月は「のんたかるた大会」イベントの実施に向けて準備を進めていました。しかし、山口県全体や周防大島町においてコロナ感染者が出ていたこと、また「まん延防止等重点措置」が適用されたことなどを考慮し、1月と2月のイベントを中止することを決定しました。

ポスターの作成やかるたの用意などが順調に進んでいたため、メンバーにとって悔しい結果となりました。そこで、週に一回行っているミーティングにて、子どもたちのために何かできることはないかとアイデアを出し合うことにしました。その結果、メンバー全員でオンラインの寄せ書きを行い、沖浦小学校に送ることを決めました。コロナ禍の中、おもしろプロジェクトを遂行するのには、いくつかの障害がありました。ミーティングでメンバーの考えを聞く中で、こうした状況下だからこそ取り組みに価値が生じたこともあったのではないかとかすかな希望を持ちました。今後ともできることを模索していきたいと考えています。



準備していた「のんたかるた大会」のポスター

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**